

秘められたメディア戦略～児玉源太郎

- 「その時歴史が動いた」第238回
(05/11/16)

- 日露戦争における
外国メディア操作

「日本報道と情報環境
の変化－情報発信
に関わった外国人ジ
ャーナリスト」

14. 大正期のジャーナリズム

- 藩閥官僚政治打破へのキャンペーン
- 「白虹筆禍事件」(大7、大阪朝日)
- 新聞社の機構改革
- 国際報道の発展:
- 関東大震災(大12)の影響
- ラジオ、映画の登場



長谷川如是閑

長谷川 如是閑

(1875/11/30-1969/11/11)

- 明治・大正・昭和と三代にわたりジャーナリスト、文明批評家、評論家、作家として活躍
- 1903-06:『日本』
- 1908:鳥居素川の勧めで『大阪朝日』入社
- 天声人語、社会部長
- 白虹事件を期に退社 :「白虹日を貫けり」
- 「我国に凶変襲ヒ動揺ノ末遂ニ滅亡ニ至ラントスル情景ヲ幻想セシメ」(判決文の一部)

杉村楚人冠



- イギリス特派員
- 調査部の設置、縮刷版
- 記事審査部
- 『最近新聞紙学』(1915)
- W.Williamsとの親交

《戦前のラジオ小史》:-2 **KDKA(1920)**

- 1925(大14)3/22 東京放送局放送開始
- 1926(大15)社団法人日本放送協会発足
 - 東京、名古屋、大阪
 - 1927(昭2) テレビ実験に成功
 - 大相撲、中等野球の実況放送/
- オリンピックや国際会議の中継にラジオが活躍
- 1936(昭和11)2・26事件「兵に告ぐ」

《戦前のラジオ小史》-2

- 1941(昭16)12.5 国内放送戦時非常態勢要綱制定 <戦時体制>
- 12.8 体制太平洋戦争開戦の臨時ニュース/空襲警報放送/娯楽番組の制限/
- 対外宣伝放送(1943~日の丸アワー)
 - 南太平洋の米軍兵士向けに15分間の英語番組「ゼロ・アワー」(名称は零戦・日の丸から命名)のプロパガンダ放送を開始。
- 1945(昭20)8.15 昭和天皇の「終戦詔書」

昭和のラジオ



明治～昭和

言論出版弾圧政策について

1868	明元	太政官布告	全ての出版、新聞が許可制となる
1869	明2	出版条例	行政非難などの禁止、検印制定
1871	明4	新聞紙条例	匿名記事の禁止など
1875	明8	讒謗律	名誉毀損
		改正新聞紙条例	新聞発行の停止、差し押さえを可能に
1880	明13	集会条例	警察による集会の規制
1887	明20	保安条例	危険人物を東京から追放
1893	明26	出版法	書籍の内容による発禁、差し押さえ
1894	明27	日清戦争	
1900	明33	治安警察法	集会・結社・言論の自由を制限
		行政執行法	警察による検束
1904～05	明37～38	日露戦争	
1909	明42	新聞紙法	新聞・雑誌の内容による発禁、差し押さえ
1914	大3	※海軍省、陸軍省が新聞記事掲載のガイドライン、検閲を発表	
1925	大15/昭元	治安維持法	左翼の取り締まり
1938	昭13	国家総動員法	あらゆる経済統制、言論統制
1941	昭16	新聞紙等掲載制限令	官庁の秘密、軍機の掲載禁止などを規定

新聞紙条例：M8(1875)~M42(1909)

→新聞紙法

- 反政府的言論活動を封ずることを目的
- 新聞紙条目から新聞以外の雑誌・雑報にまで広げた
- 発行を許可制とした。
- 違反の罰金・懲役を明確に定めた。
- 社主、編集者、印刷者の権限・責任を個別に明示し、違反時の罰則を定めた。
- 同時発布の讒謗律との関係を明示した。
- 記事には筆写の住所・氏名を明記することを原則とした。
- 筆名を禁止した。
- 掲載記事に対する弁明・反論・訂正要求が寄せられた場合の次号での掲載を義務づけた。
- 犯罪(当時の法律下での犯罪)を庇う記事を禁じた。
- 政府の変壊・国家の転覆を論じる記事、人を教唆・扇動する記事の掲載を禁じた。
- 裁判の公判前の記事および審判の議事の掲載を禁じ、重罰を定めた。
- 官庁の許可のない建白書の掲載を禁じた。

チェックポイント

✓ 内川・新井『日本の
ジャーナリズム』

- 1. 政論ジャーナリズム
2. キャンペーン時代の
ジャーナリズム

✓ 『聴きとりでつづる新
聞史』→新聞人の生き
様とジャーナリズム

春原『日本新聞通史』

→クロニクルで新聞紙面
の変化を伝える

読んでおきたい文献

- 春原昭彦「新聞人群像-もう一人の新聞人-」『コミュニケーション研究』no. 28(1998)、「新聞社における調査部の役割とその変遷」no. 23(1993)
- 田中浩(編)『近代日本のジャーナリスト』
- 『別冊新聞研究 聞き取りでつづる新聞史』
- 朝日『戦後五〇年 メディアの検証』
- 坂上康博『権力装置としてのスポーツ-帝国日本の国家戦略』講談社選書メチエ136(1998)
- **鎌田 慧『反骨のジャーナリスト』岩波新書、2002**
- 佐藤卓己『八月十五日の神話-終戦記念日のメディア学](ちくま新書544)
- 朝日『戦争責任と追悼](朝日選書810、2006)
- 朝日『新聞と戦争](朝日、2008)